

萬葉集略解

十二下

和書門類	四三三〇號	一三七函	三二册
------	-------	------	-----

和書	四三三〇號	三二册	三二函
----	-------	-----	-----

内閣文庫	
番號	和 43310
冊數	32 (19)
函號	263 41



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



春日野雨浅茅標結断米也登五尺念人者彌遠長爾
 かきつゆあもあぢきあゆしたるやとわのこよひにやうほたごのり
 春まゝの終遠ちもといひたふらふにたれはなほこころをこころ
 足槍之山管根乃蕙五波曾德流君之光儀乎
 あひひのたままきとのののおのころりふりしをてんかふのたの
 上においそん存のて槍の下本と流せしうふあまのりくまにあはなをま
 としよふまうさうと用り
 或本歌曰吾念人乎将見因毛我母
 垣津旗開澤生管根之絶跡也君之不所見頃者
 かきつゆあもあぢきあゆしたるやとわのこよひにやうほたごのり

一二のあふりてり、草中よ山草よいも根こりて水の草よ根とてり、草十
 湖は接延ふもぎあぢきあゆしたるのよふらふにたれはなほこころをこころ
 中まれば浅草根し山草あふり二の白開野生とやあふりてり、草十
 足槍木之山管根之蕙不止念者於妹将相可聞
 あひひのたままきとのののおのころりふりしをてんかふのたの
 相不念有物乎鴨管根乃蕙懇吾念有良武
 あひひのたままきとのののおのころりふりしをてんかふのたの
 山管之不止而公乎念可母吾心神之頃者名寸
 かきつゆあもあぢきあゆしたるやとわのこよひにやうほたごのり

五更之目不醉草跡此乎谷見乍座而吾止俾為

あゝまのめままぐもこれさふみついでこれとまぬさせ

めままぐもは草のふらあうで何とてあれ物とていふ

といふ何とていふとあるまどいれ交へて孝仲五親親の睡草却睡

草のふらとけりあはくハも睡草のふらとていふ

萱草垣毛繁森雖殖有鬼之志許草猶懲雨家利

わきれぐもかたしきふうあつれが志の志こもなげしゆらめ

志こもなげしゆらめは鬼ハ醜と申してこも悪く思ふこもなげしゆらめ

志許草ハ一草のふらあうで志とていふは草のふらあうで志とていふ

わきれぐもかたしきふうあつれが志の志こもなげしゆらめ

下細よつぐれど鬼の志こもなげしゆらめ

浅茅原小野雨標結空言毛将相令聞懲之名種爾

万解十二下 四

あまのいもあまのいもあまのいもあまのいもあまのいも

一二の句いもあまのいもあまのいもあまのいもあまのいも

あまのいもあまのいもあまのいもあまのいもあまのいも

あまのいもあまのいもあまのいもあまのいもあまのいも

或本歌曰将来知志君矣志将待又见柿本朝臣人麻呂

歌集然落句少異耳 志とていふ知志の知ハ言の得のいもあまのいも

志とていふ人麻呂あまのいもあまのいもあまのいも

皆人之笠雨縫云有間管在而後雨毛相等曾念

みまひののさまぬいもあまのいもあまのいもあまのいも

あまのいもあまのいもあまのいもあまのいもあまのいも

上ハ管のいもさまぬいもあまのいもあまのいもあまのいも

三吉野之蜻乃小野雨刈草之念亂而宿夜四曾多

こらげきさしけののむと、舟の...
くさくさく

白月田
上良

木綿裏一云 白月山之佐奈葛後毛必將相等曾念

ゆたみたちまづみやまのさたのつづの...
累ハ一本置...
後...
...
...

或本詩曰將絶跡妹乎五尺念莫久爾

唐棟花色之移安情有者年乎曾寸經事者不絶而

はおすゝのうつろひ...
...

如此為而曾人之死云藤浪乃直一目耳見之人故爾

万解十二下 七

か...
...

...

...

住吉之敷津之浦乃名告藻之名者告而之卒不相毛恠

すみの...
...

...

三佐吳集荒磯雨生流勿謂藻乃吉名者不告父母者知鞠

み...
...

みまご改むよりのまゝいんなるめいまゝいんなるめい
名者若志^{ラシテヨ}余親ハまゝいんなるめい
改むよりのまゝいんなるめい
改むよりのまゝいんなるめい
改むよりのまゝいんなるめい

浪之共靡玉藻乃片念爾五念人之言乃繁冢口
かゝのむいぢくたまものかゝのむいぢくたまもの

海若之奥津玉藻之靡将寝早来座君待者苦毛
わづみのなまじくたまものなまじくたまもの

海若之奥雨生有繩乘乃名者曾不告德者雖死
あいのなまじくたまものなまじくたまもの

わづみのなまじくたまものなまじくたまもの

まのう段まよよに序まよよに父母上置のまよよに
まよよに序まよよに父母上置のまよよに
まよよに序まよよに父母上置のまよよに
まよよに序まよよに父母上置のまよよに
まよよに序まよよに父母上置のまよよに

玉緒字片緒雨槎而緒字弱彌亂時雨不戀有目八方
たまものなまじくたまものなまじくたまもの

まよよに序まよよに父母上置のまよよに
まよよに序まよよに父母上置のまよよに
まよよに序まよよに父母上置のまよよに
まよよに序まよよに父母上置のまよよに
まよよに序まよよに父母上置のまよよに

君爾不相久成宿玉緒之長命之惜雲無

きみあはれは...
恋事益今者玉緒之絶而亂而可死所念

こころまされ...
海處女潜取云忘具代二毛不忘妹之光儀者

あまふもあづき...
朝影爾吾身者成奴玉蜻髮髻所見而往之兒故爾

あまふもあづき...
中中二人跡不在者桑子爾毛成益物平王之緒許

あまふもあづき...
真管吉宗我乃河原爾鳴千鳥聞無吾背子吾戀者

許ハ計ノ誤

あまふもあづき...
中中二人跡不在者桑子爾毛成益物平王之緒許

あまふもあづき...
真管吉宗我乃河原爾鳴千鳥聞無吾背子吾戀者

あまふもあづき...
あまふもあづき...
あまふもあづき...

あまふもあづき...
あまふもあづき...
あまふもあづき...

あまふもあづき...
あまふもあづき...
あまふもあづき...

橋ヲ猶
ニ誤

志とぐす折河、神名帳大和国高市郡宗我坐宗我都比古神社といひ、
し飛をる里の無ふよは不我村ありて、この河ありて、別捨隈川の末とぞ、
よハるべきいとん序の

戀衣著猶乃山雨鳴鳥之間無時無吾戀良苦者

こゝろときまゝのやまゝとてあゝとてまゝとてまゝとてわづらうとてハ

恋ハ舊の字のまよふはれり、まゝ、舊衣とてまゝとてまゝとてかけまゝと

河ハ冠輝考よまゝとてまゝとてまゝのしよまゝとてまゝとてまゝとてまゝと

序の

遠津人獺道之池雨住鳥之立毛居毛君乎之曾念

とつひとかちのつけまゝとてまゝとてまゝとてまゝとてまゝとてまゝと

遠津人抱河、姓良録ニ雄略天皇所世獻加里乃郡仍賜姓輕部君
とんえ、名守、持の跡とよまれり、河志のよハるの

万解十二下 十

葦邊往鴨之羽音之聲耳聞管本名戀渡鴨

あべゆぐののはおののこま、まゝとてまゝとてまゝとてまゝとてまゝと

よハるべきいとん序の

鴨尚毛已之妻共求食為而所遺間雨戀云物乎

かすまゝとてまゝとてまゝとてまゝとてまゝとてまゝとてまゝと

遺ハ後とてまゝとてまゝとてまゝとてまゝとてまゝとてまゝと

よハる

白檀斐太乃細江之菅鳥乃妹雨戀哉寢宿金鶴

まゝとてまゝとてまゝとてまゝとてまゝとてまゝとてまゝと

まゝとてまゝとてまゝとてまゝとてまゝとてまゝとてまゝと

まゝとてまゝとてまゝとてまゝとてまゝとてまゝとてまゝと

まゝとてまゝとてまゝとてまゝとてまゝとてまゝとてまゝと

勅知国々... 小竹之上雨来居而鳴鳥自平安見人妻如雨五息一来
 志ぬの...
 又管ハ管の...
 小竹之上雨来居而鳴鳥自平安見人妻如雨五息一来
 志ぬの...
 又管ハ管の...

万解十二下 十一

鶏ヲ鶏
ニ誤

物念常不宿起有且開者和備氏鳴成鶏左倍
 朝鳥早勿鳴吾背子之且開之容儀見者悲毛
 拒棧越雨來咋駒之雖言猶息久思不勝鳥
 勢胡之々又回事久敵胡之亦武彦は武古馬乃...

右一首平羣文屋朝臣益人傳云昔聞紀皇女竊嫁高安王被責之時御作此歌但高安王左降任之伊與國守也

高安王左降任之伊與國守也

紫草宇草跡別別伏鹿之野者殊異為而心者同

むらさきくさのあとわかれわかれのめづりごとくはれやど
 舞たのまよひをまよひとせむらさきくさのよけいさきりて
 ぶのけりゆめハ各いもれどまよひをまよひとせむらさきく
 石玉の美よりたより世中をまよひとせむらさきくむらさきく
 めづりごとくはれやどまよひをまよひとせむらさきくまよひ
 中つらうとちやけやまよひをまよひとせむらさきくまよひ
 月くまよひとせむらさきくまよひをまよひとせむらさきく
 まよひをまよひとせむらさきくまよひをまよひとせむらさきく

いづれをともゆるまよひとせむらさきく

不想乎想常云者真鳥住卯名手乃杜之神思将御知

おほいぬをとりよといまよひをまよひとせむらさきくまよひ

まよひをまよひとせむらさきくまよひをまよひとせむらさきく
 天下まよひとせむらさきくまよひをまよひとせむらさきく
 てハ和名抄大和高市新室撈宇奈天、畝大山の原少子や撈村とりあうて
 そののむらさきく困人いて出雲國造神賀伺ふ事代主命宇奈提乃
 神奈備ふまよひとせむらさきく天武紀より市大領子依ありし事代主
 命ん、そよ卯名手大津もん、此方子か撈へ申せしむらさきくまよひ
 中よ此神社とまよひとせむらさきく

問答歌

紫者灰指物曾海石榴市之八十街雨相兒哉誰

ひとあぢゆみたがよあびぎてくぐりてしるしきまらばたがよあぢゆみ
あつしにゆへんこふよ里人といひつるがゆよりえやこしひてしるし
たがよあぢゆみあぢゆみあぢゆみあぢゆみあぢゆみあぢゆみあぢゆみ
まをんと人といふまをんと

相見欲為者後君毛吾曾益而伊布可思美為也
あひみまほくせれまをよわらわらまをよわらわらわらわらわらわら
いづのいぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
まをんと也に後よそくくちるこ宮をまをの下事の字経りの
ほくせるといふはあぢゆみといふ

右二首

空蟬之人目繁者夜干玉之夜夢辛次而所見欲
うせみのいぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ

万解十二下 十五

空蟬之人目繁者夜干玉之夜夢辛次而所見欲
うせみのいぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
いぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
ひとあぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
いで多約あぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ

即古河へ

右二首

慙歎憶吾妹乎人言之繁爾因而不通比日可聞
ねところあぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
人言之繁思有者君毛吾毛将絶常云而相之物鴨
ひとぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ
きてはうけいぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢぢ

ついでにうしろかきのこと

右二首

為便毛無片戀字為登比日雨吾可死者夢所見哉

もへんかのきかひのしとをもとこのごろはわがまぬふさいいめふみえきた

つづぬぬさきまねかふやとまよふるるぬと

夢見而衣乎取服装束間雨妹之使曾先雨来

いめみみてころわととわきよまふいごつらひぞさきたちふけ

まのまよふるふよゆうてまよひくぬがゆゆんととるるふぬが

より使のまよと

右二首

在有而後毛将相登言耳乎堅要管相者無雨

あつてのちとありんとこのみとがこいひつあよとをわが子

万解十二下 十六

あつてながくをたつたあし不相や要之とちよは要はしあ
よりあま

極而吾毛相登思友人之言社繁君爾有

きりあてわれありんとあまどもいとのこそまげきくみたれ

初るにきかこいひつてりまをけし物ありとぬくまんと

しつと相の上將のまと股せ

右二首

氣緒雨言氣築之妹尚字人妻有跡間者悲毛

いきのよふわのいさづきいしとまなわきまのあきんこあ

あををぬく意敷きしつと氣づくは思の切るあしとあ

とためあつてしつと

我故爾痛勿和備曾後遂不相登要之言毛不有爾

誤年辛ノ

吾勢子之使乎待跡笠不着出乍曾見之雨零雨

わつせこのつしとまつてかやきざいでつぞみしあえのあらとよ

けあきよ一より載りか彼に只今の軌よととてくは同をられん

無心雨雨毛有鹿人目守之妹雨今日谷相年

ころちきあめあもあるのしとめむるともきいひよくさぶるあんと

人目の遠と夜いふためくをぬくと年官本辛のあすとと

右二首

直獨宿村宿不得而白細袖辛笠雨著沾乍曾来

たひとやぬれどぬらぬてまらるるのそぞとかよまぬれつぞこ

雨毛零夜毛更深利今更君将行哉紐解設名

あめふらよもよけはけいままよまきゆめやいといままけな

深の下氣の子と腹せりあめやいゆんやまけいよのまらるる

万辭十二下十八

まけんり

右二首

久堅乃雨零日辛我門雨蓑笠不蒙而來有人哉誰

いかにめあめのよしとわがまのからまきざてまいるひやれ

法句室書はけるひちやれ川べりけるまきざのちほんとつまき

よまんとやまきざ

纏向之痛足乃山雨雲居乍雨者雖零所沾乍鳥来

まやむくのあぢのやまふくとおつあめふれぬれつぞこ

鳥ハ方の信つるべ

右二首

羈旅發思

度會大河邊若歷木吾久在者妹戀鴨

わろしのおののへのわらんかたがしらあはれにやみかた

度舎ハ伊勢和名抄歴木^{久奴}木^ホ若と五子まねる序へいよまじりて

むらさきのきくとしそとまねいこそ我人へ移るあはれはあはれ

吾妹子夢見来倭路度瀬別手向五口為

わびごとといぬふるごとやまなごのわらせごられたむけがご

多うええあれうとれくもなごるん

櫻花開哉散及見誰此所見散行

さくらうさぎをかもちもみきぞにいれたるもこふみえしてちうやう

梅のやうあめくすうらうこちうらへほごうう新きをせりていよ

かゝるく泣くといふは一人とさるもぬいよるものやうにまじりのあはれ

豊州聞濱松心喪何妹相之始

とよふのまこのとまづいころよしたのよのいよあはれいよえけむ

和名抄豊前企政郡文房本喪と哀ふ之と云云能きくば侍の侍言

あ〜ころいつこちうらあひんそけん所へいれむとれぐとれぐ

極ち〜ぞあはれ心喪不遠うまの侍き〜え見の侍ち〜く〜

のほね〜が〜ち〜あ〜い〜と〜ん〜と〜へ〜ん〜は〜後〜と〜遠

よ〜る〜う〜ま〜く〜不遠とつげ〜る〜う〜い〜と〜れ〜え〜定〜き〜い〜心喪の字のほあ〜

と〜な〜れ〜い〜ろ〜や〜く〜き〜ち〜ん〜ら〜う〜ま〜は〜い〜喪〜心喪のほら〜ま〜ま〜上〜衰〜誠〜也〜と

あはれ心喪を哀ふ〜ぬ〜ころとまづい〜と〜い〜う

右四首柿本朝臣人麻呂歌集出

月易而君辛婆見登念鴨日毛不易為而慮之重

つきかへてきみとびんとあはれ〜い〜ま〜く〜と〜い〜の〜ま〜げ〜て〜

あ〜ら〜う〜い〜ち〜い〜う〜も〜く〜思のまを操ま〜く〜あ〜ら〜は〜す〜ん〜月〜の〜ゆ〜あ〜ん〜と〜い

あ〜ら〜う〜い〜ち〜い〜う〜も〜く〜思のまを操ま〜く〜あ〜ら〜は〜す〜ん〜月〜の〜ゆ〜あ〜ん〜と〜い

莫去跡。變毛來哉。常顧爾。雖往不歸。道之長乎矣。

なゆきそし、か、つ、く、と、か、つ、く、よ、ゆ、げ、ど、ら、な、み、の、た、ら、と、
と、遠、く、人、改、は、ゆ、く、は、又、と、し、む、や、し、ゆ、く、の、よ、く、つ、く、つ、ゆ、け
目、の、ぶ、い、ま、ま、き、う、り、て、い、む、人、か、ま、う、る、の、や、遠、く、來、ぬ、を、教、へ、る、
ハ、既、に、い、り、あ、り、ち、り、に、ハ、十、均、手、い、つ、ハ、均、道、と、ま、の、ゆ、ハ、手、い、り、ま、れ
ハ、ハ、ハ、ハ、の、ま、ら、と、ま、ら、い、ん

去家而妹乎念出灼然人之應知歎將為鴨

た、い、ず、て、い、も、と、ら、し、い、で、い、ち、ぶ、く、い、の、ま、え、さ、た、げ、ま、い、さ、ん、の、も

里離遠有莫國草枕旅登之思者尚愈來

さと、け、の、あ、り、や、の、う、ち、く、に、い、ま、さ、く、ら、た、い、と、い、ハ、バ、た、の、あ、い、ま、ら、
ま、ら、く、く、地、の、ま、の、た、ら、ぬ、た、り、ま、は、ま、た、ぞ、い、ね、ど、く、ま、ら、く、ま、ら、く、

近有者名目毛聞而各種目津今夜從戀乃益益南

ち、り、れ、バ、た、の、み、し、ま、ら、つ、た、ら、く、ま、あ、い、と、し、ゆ、い、の、い、や、ま、ら、ち、ん
ま、ら、く、つ、て、ま、ら、く、い、ま、ら、く、ま、ら、く、ま、ら、く、ま、ら、く、

客在而慮者辛苦何時毛京行而君之目乎將見

た、い、ま、あ、り、て、い、れ、ば、い、つ、い、ま、ら、く、ま、ら、く、ま、ら、く、ま、ら、く、

遠有者光儀者不所見如常妹之咲者面影為而

と、い、の、れ、い、ま、ら、く、い、ま、ら、く、い、ま、ら、く、い、ま、ら、く、い、ま、ら、く、い、ま、ら、く、
年、毛、不、歷、反、來、嘗、跡、朝、影、雨、將、待、妹、之、面、影、所、見

と、い、ま、あ、り、て、い、れ、ば、い、つ、い、ま、ら、く、ま、ら、く、ま、ら、く、ま、ら、く、

遠、く、聞、く、の、よ、ま、ら、く、ま、ら、く、ま、ら、く、ま、ら、く、ま、ら、く、
ま、ら、く、ま、ら、く、の、ま、ら、く、ま、ら、く、ま、ら、く、ま、ら、く、ま、ら、く、

客ヲ容
ニ誤紐ヲ
誤

客夜之久成者左丹頰合紐開不離意流比日
たじよのひさしくちねいしんかきんかひんこんじん

さきとみづついで
きんかひんかきんかひんこんじん

吾妹兒之阿身徳良志草枕旅之九寝雨下紐解

わがまへこしあそまらむしんかきんかひんこんじん

あそまらむしんかきんかひんこんじん

草枕旅之衣紐解所念鴨此年比者

くさまくらびのころのいぬかひんかきんかひんこんじん

あそまらむしんかきんかひんこんじん

草枕客之紐解家之妹志吾之待不得而嘆良霜

くさまくらびのひんかきんかひんこんじん

吾之ハ吾
手ノ誤

釧ヲ釧ニ
誤

玉釧卷寝志妹年月毛不經置而八将越此山岫
たまぐしんまきねいしんかきんかひんこんじん

あそまらむしんかきんかひんこんじん

あそまらむしんかきんかひんこんじん

あそまらむしんかきんかひんこんじん

あそまらむしんかきんかひんこんじん

梓弓未者不知杼愛美君爾副而山道越来奴

あづまゆひもあまきねいしんかきんかひんこんじん

あそまらむしんかきんかひんこんじん

あそまらむしんかきんかひんこんじん

霞立春長日乎奥香無不知山道乎意尔可将来

かすみはるながひのうしろかきんかひんこんじん

春一處三長春日字一者、くし長春日とあり、くしはゆきをさし、
うらひのけまきうらむと云ふ、將來ハゆりのこと

外耳君乎相見而木綿牒、手向乃山乎、明日香越將去

よそのみまきこみとあひみてゆきまきふたむけのやまとあつらんらん

ゆきこみ木綿牒、字鏡筒也、布弥太、後漢書王符傳皆服文組綵牒、注牒即今

置布と云ふ、こみと向へたる筒、古板竹、韋志てあつらんらん、たむむ

るべ、集中奈良のよめと、後海お坂のよめとある中よ、こみ奈良のよめといふ

奈良人のあまて、明日越んといふ、あまの系の子の娘は後であつらんらん、にむと

男とかめのよのおたてえをたつらん、ゆきはまきふと云ふ、木と世、あつらん

玉勝間安徳島山之暮露爾旅宿得為也、長此夜乎

たまかつまあへまやまのゆらつゆらたひねらん、たつらん、あつらん

あつらん、尾張國風土記云、中島郡安徳島山、又仲哀紀限没利

万解十二下 廿三

鳥阿阿島為御書、いづ、長此、あつらん、あつらん、あつらん

いづ、あつらん、あつらん、あつらん、あつらん、あつらん

あつらん、あつらん、あつらん、あつらん、あつらん、あつらん

あつらん、あつらん、あつらん、あつらん、あつらん、あつらん

三雪零越乃大山行過而何日可我里乎將見

みゆきふるこのおやまゆきとぎら、いつれのひあつらん、あつらん

三、いづ、神名帳越前丹生郡大山御坂神社、お名抄越中婦、郡大

山、お保、あつらん、あつらん、あつらん、あつらん

乞吾駒早去欲亦打山將待妹乎去而速見牟

いづ、あつらん、あつらん、あつらん、あつらん、あつらん

保、あつらん、あつらん、あつらん、あつらん、あつらん

あつらん、あつらん、あつらん、あつらん、あつらん

惡木山木末悲明日後者靡有社妹之當將見

あまきやまのむすねのこゝろあまきよはるひきたりてりとのあきうらん
聖の蘆城山の尾法春都郡安食近江大上郡安食よりより考へるまひ
たりこそは靡てありこそはく鹿けういひぬんごのあひあひけ
此のよきもの

鈴鹿河八十瀬渡而誰故加夜越雨將越妻毛不在君

しづかごやせわたりにしづかごやせわたりにしづかごやせわたりに
伊勢鈴鹿郡此川同山河をあるはくまにゆるりゆれかた
よきもの

吾妹兒爾又毛相海之安河安寢毛不宿雨戀渡鴨

わが妹のこゝろまたわが妹のこゝろわが妹のこゝろわが妹のこゝろ
まのりまのりわが妹のこゝろわが妹のこゝろ

あまのこゝろわが妹のこゝろわが妹のこゝろわが妹のこゝろ
あまのこゝろわが妹のこゝろわが妹のこゝろ

客爾有而物乎曾念白浪乃邊毛奧毛依者無爾

きやくにありてものなをわが妹のこゝろわが妹のこゝろ
わが妹のこゝろわが妹のこゝろ

湖轉雨滿來臨能彌益二戀者雖刺不所忘鴨

うみまわりのあまのこゝろわが妹のこゝろわが妹のこゝろ
あまのこゝろわが妹のこゝろ

奥浪邊浪之來依貞浦乃此左太過而後將戀鴨

おくなみへあまのこゝろわが妹のこゝろわが妹のこゝろ
あまのこゝろわが妹のこゝろ

卷十一 在千方在名草目而行目友家有妹伊將鬱悒

懈ハ倦るれば、又ハ懈のほの、若十たて、堂の粉油乃は、よらふ、
ハ海とて、自らよらふ、か、好とよらふ、みらんや、い、

浪間從雲位爾見流粟島之不相物故吾爾所依兒等
かみまより、くわゆる、あ、まの、あ、ら、の、ゆ、ら、ち、よ、よ、ら、い、ら

粟もあ、ら、の、ゆ、ら、ち、よ、よ、ら、い、ら、
ま、ら、の、ゆ、ら、ち、よ、よ、ら、い、ら、
根、ら、の、ゆ、ら、ち、よ、よ、ら、い、ら、
え、原、を、目、の、上、所、の、ま、ら、

衣袖之真若之浦之愛子地間無時無吾戀鑽

こ、ら、で、の、ま、わ、の、ら、の、ま、あ、ら、の、ま、あ、ら、の、ま、あ、ら、
あ、の、根、の、ま、あ、ら、の、ま、あ、ら、の、ま、あ、ら、
こ、ら、の、ま、あ、ら、の、ま、あ、ら、の、ま、あ、ら、
和名抄云、整、ま、ら、の、ま、あ、ら、

万解十二下 六六

釣ヲ
二保

一名鑊、説文云、鑊、名、上、同、大、鋤、也、字、鏡、久、波、と、あ、れ、く、は、の、河、の、傍、に、
能登海爾釣為海部之射去火之光爾伊往月待香光
の、の、ら、み、よ、ら、の、ま、あ、ら、の、ま、あ、ら、の、ま、あ、ら、
ほ、ゆ、の、ゆ、ら、の、ま、あ、ら、

思香乃白水郎乃釣為燭有射去火之髣髴妹乎将見因毛
欲得

ま、の、の、あ、ま、の、ま、あ、ら、の、ま、あ、ら、の、ま、あ、ら、
ま、の、の、あ、ま、の、ま、あ、ら、の、ま、あ、ら、

難波方水手出船之遙遙別来禮村忘金津毛

か、の、あ、ら、の、ま、あ、ら、の、ま、あ、ら、の、ま、あ、ら、
ま、の、の、あ、ま、の、ま、あ、ら、の、ま、あ、ら、

泊ヲ
二保

浦回榜能野舟泊目類志久懸不思月毛日毛無

白妙之袖之別者雖惜思亂而救鶴鴨

きつたのそごのつれをけしおのいみだれてゆるしるがよ

おぼくは神の神のふれとりよまに思ひつゝおぼくはたのむとて

京師邊君者去之乎孰解可言紐緒乃結手懈毛

みやらふききみひいよとたれをけつわがいのそのゆすたゆし

とけつひとけつひのいとあつと下御のおのれととるひん

えといよあやうくさびく人い遠くかへけりものを流しけがふい

草枕客去君乎人目多袖不振為而安萬田悔毛

くさまくらききみひいよとたれをけつわがいのそのゆすたゆし

万解十二下 廿九

白銅鏡手二取持而見常不足君爾所贈而生跡文無

まろがみてふりもちてみれどあぬまきまよおられていけり

一二の白にるさういん席のしほ

陰夜之田時毛不知山越而往座君乎者何時将待

くわりのたごしきつめまきまよていままきまよいし

くまりの枕のまきまよの夜のい

田立名付青垣山之陽者數君乎言不問可聞

たたちうあをがまよまへたらばまきまよい

たたちう枕のまきまよい

きん女の教く

朝霞蒙山乎越而去者吾波将息奈至于相日

あさかきみたはびくまよこころい

足槍乃山者百重雖隱妹者不忘直相左右二

あびきのやまいかくまかくすいはいわされたよあまのくに

ふみぬきとゆきいづれをいふ妹とをいふなり

一云雖隱君子思苦止時毛無

一かハ女のもとして、夫の孫なりと山のはまをいふなり

雲居有海山越而伊往名者吾者將戀名後者相宿友

くればなるふやまをいひますなればこしんちのちあひぬき

遠くはらとこころくばるなりふれなりいふなり

とむらりてんちのたのしみ

不欲惠八趾不戀登為杉木綿開山越去之公之所念良國

ゆもや一こしとれゆもやまこころあきみのおやゆき

趾を八趾と信あり一かとはて改又一かとは所なり本條のふみぬき

趾ヲ詠ニ

東あまのつとむらりてんちのたのしみ遊布麻夜萬うたりきみとせしむつと

ゆもや一こしとれゆもやまこころあきみのおやゆき

ゆもや一こしとれゆもやまこころあきみのおやゆき

ゆもや一こしとれゆもやまこころあきみのおやゆき

草陰之荒蘭之崎乃笠島乎見乍可君之山道越良無

くもいづのあまのさきあがたまをいひつとさきみうやまらこゆん

草陰之荒蘭之崎乃笠島乎見乍可君之山道越良無

草陰之荒蘭之崎乃笠島乎見乍可君之山道越良無

草陰之荒蘭之崎乃笠島乎見乍可君之山道越良無

一云三坂越良牟

三坂越良牟

玉勝間島熊山之夕晚獨可君之山道將越

たまがしほのまはるまのゆだねはらふにいとほしきまはるこゆるん

おろしは木の葉の心知れぬおぼのきよきとくはるまのこ

一云暮霧雨長戀為乍寝不勝可母

長恋ハ恋之枯久礼為天那我古飛世珠波

そとくハ霧の原の心知れぬおぼのきよきとくはるまのこ

氣緒雨五又念君者鷄鳴東方坂乎今日可越覽

いよのそとくはるまのゆだねはらふにいとほしきまはるこゆるん

あづまの坂大木の東まわりのをきくせんさうのまはるまのこ

景行紀より日本武尊上野国碓日嶺こまはるまのこ

まじて東南とつとく言婦者耶とのまはるまのこ

あづまの園よりまはるまのこ

磐城山直越来益磯崎許奴美乃濱雨吾立將待

阿
二
阿

いよのそとくはるまのゆだねはらふにいとほしきまはるこゆるん

神名帳に常陸鹿島郡大洗磯前神社あり和名抄に陸奥岩城郡

岩城にあつて園に矣とれに大に取遠うまはるまのこ

人の陸奥へゆめれよゆめれよと女のよめるこはあはるまのこ

人との動もれははるまのこ

春日野之淺茅之原雨後居而時其友無吾戀良苦者

かほののあはるまのゆだねはらふにいとほしきまはるこゆるん

浅茅が原に居るまのこ

いつり

住吉乃崖爾向有淡路島何怜登君乎不言日者無

まはるまのゆだねはらふにいとほしきまはるこゆるん

遠き國へはるまのこ

笑くとあふらざりまにあふくまわいんなるいひあふ
 明日後者将行乃河之出去者留吾者戀乍也將有
 あはよふいよみのかたのいでいざどまれのくれはいつあ
 播磨の印南あま川ちるべいさばとづけいんるまひいあふ
 将行いちんとよあふとまふいさみのまよほふ
 海之底奥者恐穢回従水手運往為月者雖經過
 わのそこおふかこいそまふこがたみいませしきいぬ
 わのそこ播州沖はくこまふ穢とこがまらういさまを月
 次の月こ
 飼飯乃浦雨依流白浪敷布二妹之容儀者所念香毛
 けいめううふよのまらふまふまふいさみのいさひがゆか
 けいめうう越おたお越の園いさのいさ

時風吹飯乃濱雨出居乍贖命者妹之為社
 とまつせふけいのままんいづあふいのちいもがらんこ
 けいめうう越おたお越の園いさのいさ
 のまらふまらふ後一雁の腰をいさうて獲物と出たりあ
 あふいりり、罪を後捨ればあもまのこいさ
 柔田津爾舟乗將為跡間之苗如何毛君之所見不来將有
 にきたづふあまのやせんときくかあもまらふいさ
 まらば伊とくまもあまの舟乗してゆんとゆりあふ
 まんといりいさあふまらふいさのまらふあふ
 三沙吳居渚爾居舟之榜出去者裏總監後者會宿友
 みさごあふあふあふあふあふあふあふあふあふあふ
 三沙吳居渚爾居舟之榜出去者裏總監後者會宿友

降る疾あれはひらくは敷うぞやんはこりてこぎあへつまはらう
トキアツクしんとのふと

玉葛無急行核山管乃思亂而戀乍將待

たまがづたきまゆのまねままげのおもひいづねたてしきまへ

まづづ栲河ゆのまねいゆけをせしむるまへたきまゆけとけり

るまづけりいづねゆれとけりまへとまへハ乱といふん料の

後居而戀乍不有者田籠之浦乃海部有申尾珠藻前新

おくれあてこいつあはだいたのうらめあまたのまへとまへかま

事十一中いふまよまぎでハ核浦のあまらうまへとまへ藻川管と云

まへハ核川一まよおくれあへまきまきまへハみ国生のあまよま

まよまよまのまよとけりまよのハたまの国とけりまよまよの

田籠の浦とまのりて居るあまの浦とけりまよまよまよまよまよ

筑紫道之荒磯乃玉藻前鴨君久待不来

つくじのあまそのたままがもかまきまへハけりまよまよまよま

荒玉乃年緒永照月不厭君八明日別南

あはたまのとのとまづてまよまのあまきまよまあまわらへん

まよは照月のあまあままよまよまよまよまよまよまよまよまよ

久將在君念爾久堅乃清月夜毛闇夜耳見

いさよあはんまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ

まよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ

あはんまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ

春日在三笠乃山雨居雲平出見每君宇之曾念

かすがのあまのまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ

遠き旅より夫と母のく、そのと取とて...

足檜木乃片山雉立往牟君雨後而打四鷄目八方

あじぎのかくやまきざりたぢゆのんきまよおなれてうつけめやも

一二のちひまきりん席ん、まきりむきぬのととるがまけりまこれ

とよふくうつたぬやとハ現のまよとち、ちぎをぬきんやうきん

しん

問答歌

玉緒乃徒心哉八十提懸水手出牟船雨後而將居

たまのそのうつごころや、そかけ、こぎぞんよおよおなれてまらん

この後の松樹、やまのちのまき、まよ、まよ、まよのこ、まよ、まよ、まよ

ゆくとまよ、まよ、まよ、まよ、まよ、まよ、まよ、まよ、まよ、まよ

のこ、まよ

万解十二下 三十四

沾ラ活
ニ誤

八十提懸島隠去者吾妹兒之留登將振袖不所見可聞
やうのけままがくれさ、むぎうごご、まよ、まよ、まよ、まよ、まよ、まよ、まよ

舟舟の仲のまよ、まよ、まよ、まよ、まよ、まよ、まよ、まよ、まよ、まよ

むれ、まよ、まよ、まよ、まよ、まよ、まよ、まよ、まよ、まよ

右二首

十月鍾禮乃雨丹沾乍哉君之行疑宿可借疑

かきつぎまごれのおめあねつ、まよ、まよ、まよ、まよ、まよ、まよ、まよ

まよ、まよ、まよ、まよ、まよ、まよ、まよ、まよ、まよ、まよ

十月雨之間毛不置零雨西者誰里之間宿可借益

かきつぎま、まよ、まよ、まよ、まよ、まよ、まよ、まよ、まよ、まよ

雨の下とのまよ、まよ、まよ、まよ、まよ、まよ、まよ、まよ、まよ、まよ

まよ、まよ、まよ、まよ、まよ、まよ、まよ、まよ、まよ、まよ

雨下之
ハ折字

左
二
誤
在

豐國能聞乃高濱高高二君待夜等者左夜深来

とよめきこのたのままたのよきまふすゝいよけみか

まゝい途の即るるさちももすよいつりそ又るまあ

右二首



萬葉集卷第十二

万
叶
集
卷
第
十
二
下
終
三
十
六

